



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE柏2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東京大学(柏II)産学官民連携施設	階数	地上3F
建設地	千葉県柏市柏の葉六丁目2-3	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,300時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2018年1月22日
敷地面積	74,870 m ²	作成者	株式会社 類設計室
建築面積	2,855 m ²	確認日	2018年1月22日
延床面積	6,191 m ²	確認者	株式会社 類設計室



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 ・中庭側に設備シャフトを集め、屋上設備スペースと接続するインナーシャフト型の建物とすることで、外部空間と積極的に繋がる事ができる明るい研究、実験室を計画する。 ・共用部に吹抜空間を設け、クール&ヒートチューブ等のシステムを取り入れる。		その他 0
Q1 室内環境 ・研究活動を阻害しないレベルの開口・界壁・界床遮音性能を確保。 ・上下温度差、気流速度に配慮した給排気計画とし、加湿性能を有することで研究に適した環境を創出する。日	Q2 サービス性能 ・共用部と研究・実験エリアで内装計画を明確に分け、コンセプトを明確に表している。 ・階高にゆとりを持たせ、設備機器更新に対応しやすい内装計画及び、設備シャフト等を設けることで将来更新	Q3 室外環境(敷地内) ・周辺の街並みに配慮し階数を3階以下に抑え、過度に彩度の高い素材を外装材に用いない。 ・敷地内に地域住民も利用可能なフリースペースを設けつつ、周辺の植樹環境に配慮した敷地内街路を計画する
LR1 エネルギー ・吹抜空間に自然換気システム及びクール&ヒートチューブを採用する事で、自然エネルギーの活用に取り組み、運用効率のモニタリング等を行う。	LR2 資源・マテリアル ・設備機器更新に配慮した内装計画とすることで、更新時の廃棄資源の低減に寄与する計画とする。 ・自動水栓、節水型便器を使用する。	LR3 敷地外環境 ・敷地内に十分な台数の駐車場、駐輪場を確保し、ゆとりのある敷地内通路を計画することで周辺道路への交通負荷の抑制に配慮した計画とする。 ・敷地境界より十分に離れた場所に設備機器を設置し、騒音・振動・悪臭等を基準以下とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

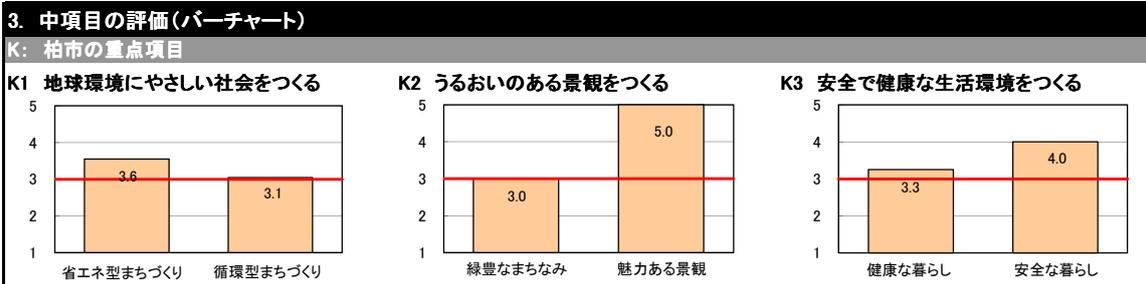


評価結果

■使用評価マニュアルCASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE柏2016(v2.1)

1 建物概要		建築物の環境効率 (BEEランク)	B+	★★★★☆
建物名称	東京大学(柏Ⅱ)産学官民連携施設(仮称)			

2 重点項目への取組み度		重点項目	取組み度※(得点/満点)	評価結果
K1	地球環境にやさしい社会をつくる		3.3 / 5.0	50%
K2	うるおいのある景観をつくる		4.0 / 5.0	80%
K3	安全で健康な生活環境をつくる		3.6 / 5.0	72%
※ 対応するCASBEEのスコアと主な指標を元に、独自に設定された条件で評価をします。(左記は評価結果の凡例)		すばらしい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満



4. 設計上の配慮事項		スコアシート
<p>K1 地球環境にやさしい社会をつくる</p> <p>吹抜空間に上部自然換気システム及びクール&ヒートチューブを設けることで、安定した地中熱を利用した換気システムとし、共用部の熱負荷を低減するシステムとしている。</p> <p>設備シャフトの確保、直天井の採用などにより、設備機器更新時に極力内装材等の廃棄物を発生させない計画としている。</p>	<p>1. 省エネ型まちづくり</p> <p>1.1 建物の熱負荷抑制(LR1-1) スコア 5.0</p> <p>1.2 自然エネルギーの利用(LR1-2) スコア 4.0</p> <p>1.3 設備システムの高効率化(LR1-3) スコア 2.5</p> <p>1.4 効率的な運用(LR1-4) スコア 2.5</p> <p>2. 循環型まちづくり</p> <p>2.1 雨水利用・雑排水再利用(LR2-1.1) スコア 3.0</p> <p>2.2 雨水排水負荷抑制(LR3-2.3.1) スコア 3.0</p> <p>2.3 非再生性資源の使用量削減(LR2-2) スコア 3.2</p> <p>2.4 廃棄物処理負荷抑制(LR3-2.3.4) スコア 3.0</p>	
<p>K2 うるおいのある景観をつくる</p> <p>敷地周辺の緑化環境を調査し、把握した上で植栽等の計画を行い、建物利用者・地域住民が生物・自然と触れ合える環境を創出している。</p> <p>敷地内に地域住民が立ち寄れるフリースペースを設け、憩いの場を創出している。</p> <p>周辺の街路樹調査を行い、特性を把握した上で、新たな景観を創出する歩行者空間を計画している。</p>	<p>1. 緑豊かなまちなみ</p> <p>1.1 生物資源の保全と創出(Q3-1) スコア 3.0</p> <p>2. 魅力ある景観</p> <p>2.1 まちなみ・景観への配慮(Q3-2) スコア 4.0</p> <p>2.2 水空間の創出 設置の有無 -</p> <p>2.3 道路沿いの緑化 緑視率の確保 O</p>	
<p>K3 安全で健康な生活環境をつくる</p> <p>適切な研究環境を創出するために必要な空気質環境を確保する計画としている。</p> <p>職員・学生だけではなく地域利用者にも配慮したバリアフリー計画としている。</p> <p>地域利用者が利用可能なエリアと研究エリアを明確にゾーニング分けし、明快なセキュリティ計画としている。</p>	<p>1. 健康な暮らし</p> <p>1.1 空気質環境(Q1-4) スコア 3.5</p> <p>1.2 バリアフリー計画(Q2-1.1.3) スコア 3.0</p> <p>2. 安全な暮らし</p> <p>2.1 耐震・免震(Q2-2.1) スコア 3.0</p> <p>2.2 防犯対策 防犯性の配慮 O</p>	